

第3回 中国金融研究会

中国フィンテックの最新動向と日本への示唆

2019年6月18日

株式会社野村総合研究所
金融ITコンサルティング部 兼 グローバル産業経営研究室

上級コンサルタント

李 智慧



目次

I. キャッシュレス化が急速に進む中国

II. 中国フィンテック先端企業の戦略と展望

III. スマート化・デジタル化が進む中国の金融業界

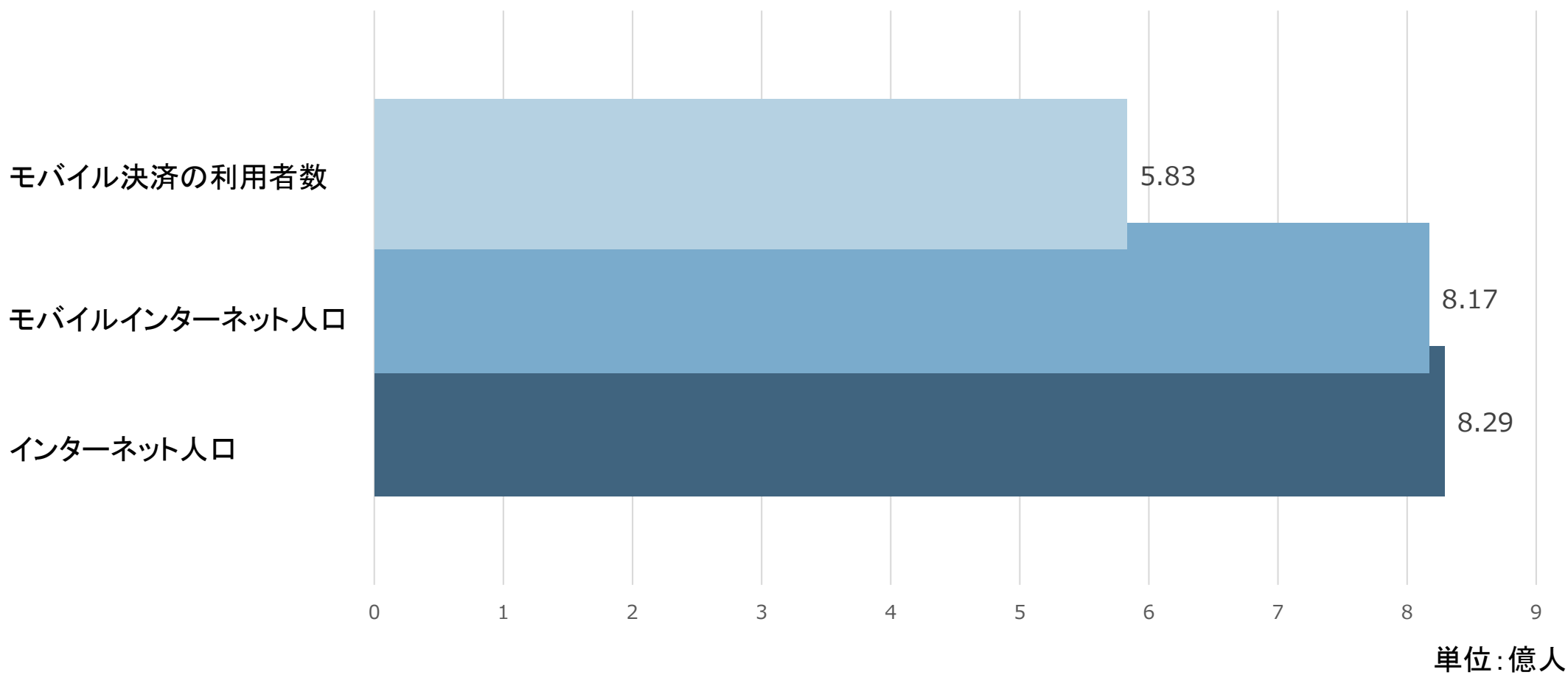
IV. まとめ

I. キャッシュレス化が急速に進む中国

I. キャッシュレス化が急速に進む中国

モバイルインターネット人口の7割以上は、モバイル決済サービスを利用している

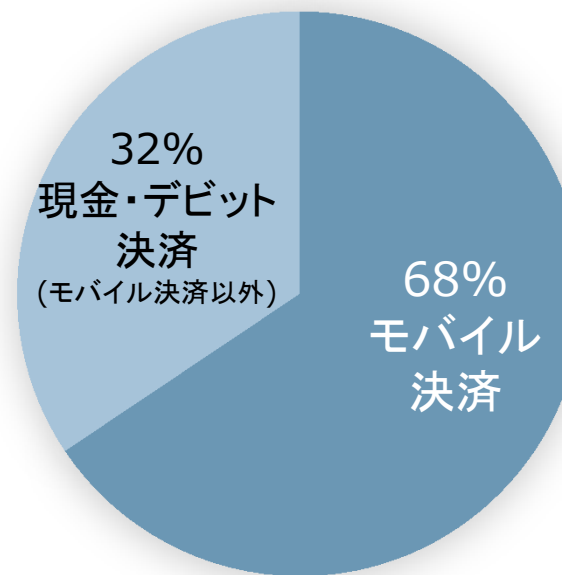
中国インターネット人口とモバイル決済サービスの利用者数（2018年）



I. キャッシュレス化が急速に進む中国

モバイル決済のオフラインサービスへの浸透は、ビッグデータの蓄積を加速させた

都市部「実」店舗の決済シェア(2018年6月時点)



参考: 農村地域のモバイル決済割合

47.1% (2017年)



57.0% (2018年6月)

出所) CCINCデータより野村総合研究所作成

I. キャッシュレス化が急速に進む中国

シェアリングエコノミー等新たなサービスの勃興のきっかけにもなった

中国のシェアカー「途歌」の事例



所定の位置に返却すれば自動精算される

APP経由で近所の車を検索

写真出所)

http://auto.sina.com.cn/j_kandian.d.html?docid=fyphkhm0315164&subch=uauto

I. キャッシュレス化が急速に進む中国

QRコード決済から顔認証決済、無人決済等へと進化をし始めた

京東の無人コンビニ



写真出所) 左 INSPIRY社提供、右 著者撮影

II. 中国フィンテック先端企業の戦略と展望

II. 中国フィンテック先端企業の戦略と展望

提供側の視点ではなく、利用者やパートナーの立場に立って、課題解決に繋げていく発想

中国のInsTechトップ企業 衆安保険の事例

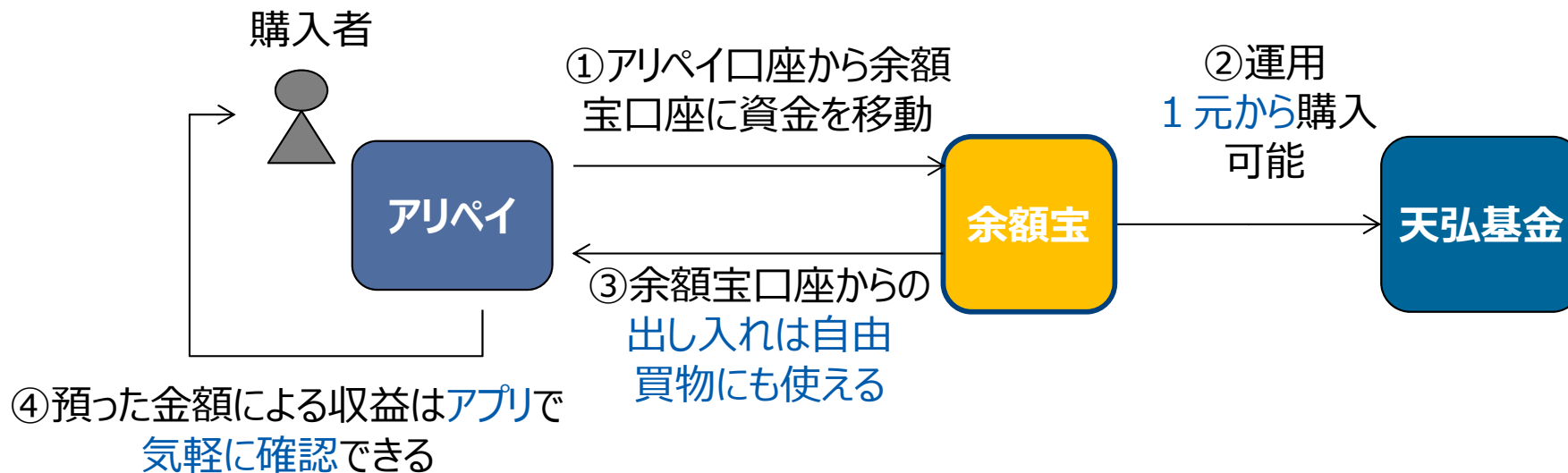


出所) 小猪短租HP、野村総合研究所作成

II. 中国フィンテック先端企業の戦略と展望

ECビジネスと資産運用の融合によって、これまでの常識を破るサービスが生まれた

余額宝の事例



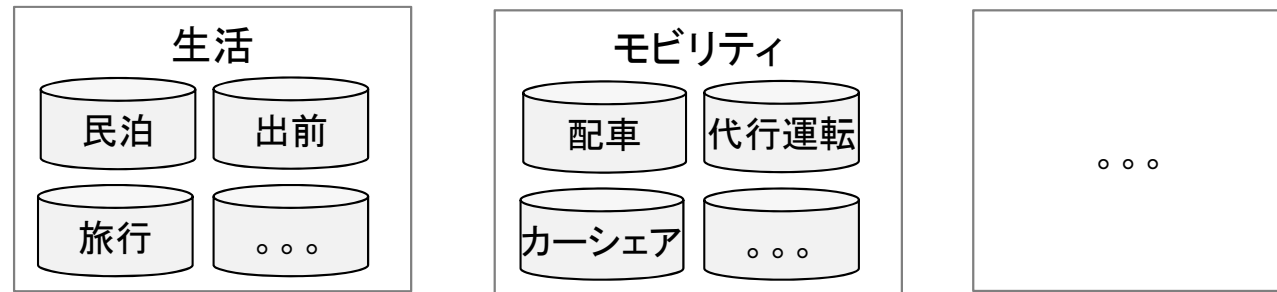
発売当初の余額宝の概要（2013年5月29日～2014年5月26日）

総収益: 118億元	口座の平均単価: 5030元
利用者: 1億人以上(世界最大規模)	利用者平均年齢: 29歳
規模: 5742億元	預け入れ: 4.96億回・引き出し8.1億回(年)

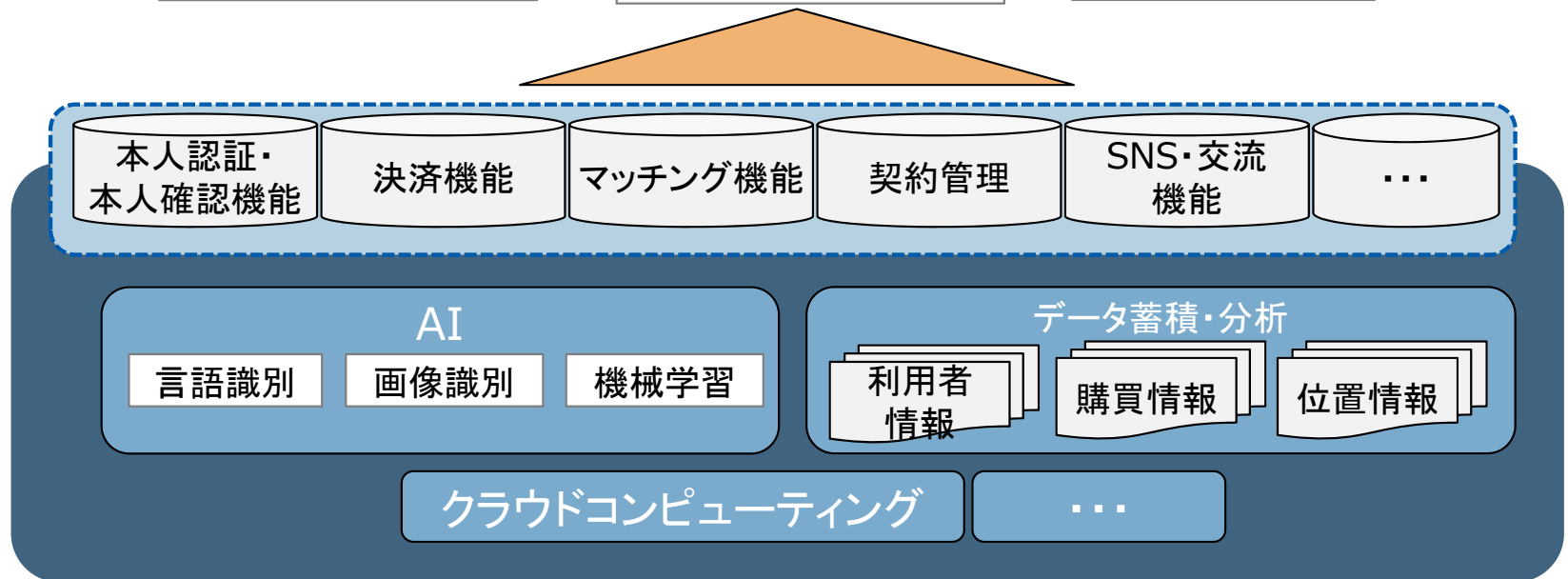
II. 中国フィンテック先端企業の戦略と展望

自社能力を外部に提供するという他社との共創戦略で、外部企業との共同成長を図る

様々な事業者



プラットフォームマー
が提供するインフラ



出所) 日経BP 「チャイナ・イノベーション」 李智慧著

II. 中国フィンテック先端企業の戦略と展望

Alipayは、既に55以上の国と地域で展開されている

- アント・フィナンシャルが海外のパートナーと共同でローカル市場向けに提供しているデジタル・ウォレットサービスは、9種類に達している。
- 結果、中国も含め、世界で10億人以上の消費者にサービスを提供している。

アント・フィナンシャルがパートナーと展開するデジタル・ウォレットサービス

	デジタル・ウォレット
インド	Paytm
タイ	Truemoney
韓国	kakaopay
フィリピン	GCash
中国香港	AlipayHK
マレーシア	TnGD
インドネシア	DANA
パキスタン	Easypaisa
バングラデシュ	bKash

Ⅲ.スマート化・デジタル化が進む中国の金融業界

中国の金融機関はスマート化・デジタル化への取り組み方針が様々

■【取組方針1】 出資や提携等を通じたFinTech企業の困い込み

- 四大メガ銀行とFinTech大手との戦略提携の事例以外、中信銀行が百度と合併でダイレクト銀行の「百信銀行」を設立する等、提携事例が増えている。

■【取組方針2】 自ら新技術に基づいたサービスを提供し、サービスの高度化を図る

- 招商銀行はFinTechを活用した革新を積極的に推進し、率先して微信銀行、スマートフォンアプリを導入し、顧客体験の改善、コスト削減、顧客の獲得等において成果を上げている。
- FinTech子会社を設立する動きも活発で、自行の能力とバリューの外部への提供といったオープン戦略を加速している。

■【取組方針3】 新しいビジネスモデルやサービスを創出、金融エコシステムの構築

- 中国の平安グループは、この分野の先駆者である。
1998年保険会社として設立してから、銀行、証券、信託、リース等の事業を揃う金融コングロマリットに成長した。傘下の陸金所は中国最大のP2Pファイナンスとなったほか、前海金融資産取引所、平安衆籌（クラウドファンディング）、平安付（決済）、平安好医者（健康管理及び医療）、平安好房（不動産総合情報プラットフォーム）など多様な新事業を創出、金融エコシステムを形成している。

※注：平安グループの詳細は、下記ご参照
金融ITフォーカス 6月号「平安保険グループのDX戦略」

Ⅲ.スマート化・デジタル化が進む中国の金融業界

様々なサービスがオンラインで完結でき、銀行カードの時代からアプリの時代へ

招商銀行の顔認証ATM



•アプリのダウンロード数**8000万超** (2018/12時点)

•アプリのアクティブユーザー数**4000万人超/日**

•招商銀行アプリは中国銀行業界の**6つの“中国初”**を実現した

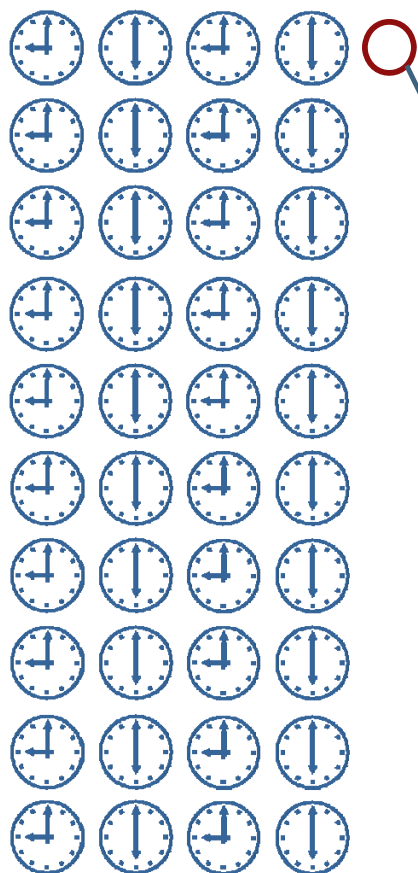
1. 中国初のビッグデータに基づく収支記録の実現
2. 中国初の総合的な収益報告書の提供
3. 中国初の顔認識、音声認識、指紋認識等生体認証技術の導入
4. 中国初の顧客に合わせたカスタマイズサービスの提供
5. 中国初のロボットアドバイザーサービスの提供
6. 中国初の顧客と銀行とのコミュニケーションツールの導入

写真出所)YITU社提供

人工知能等新技术を積極的に導入し、業務の効率化に大きく貢献している

- オンラインでの口座開設、スマートコールセンターなど様々な業務での人工知能技術の活用が進んでいる。

未納催促業務への応用



伝統的なコールセンター



ロボット

10名のオペレーターが1万名の
コールリストを処理するには、

伝統的な方法なら、最低限**5**営業日かかる

ロボットによる処理なら、僅か**1**時間で終了

40倍

Ⅲ.スマート化・デジタル化が進む中国の金融業界

FinTech子会社を通じ、高度人材の誘致と外部サービスとの連携を強化する

中国の主な銀行系FinTech子会社の概要と特徴

金融機関	FinTech子会社名	設立時期	主な提供サービス
興業銀行	興業数金	2015年12月	金融クラウドサービス、オープンAPIを通じた銀行と顧客のコネクター機能
平安グループ	金融壹帳通	2015年12月	銀行向けスマートクラウドサービス、保険向けスマートクラウドサービス、資産運用向けスマートクラウドサービス、オープンプラットフォーム など
招商銀行	招商雲創	2016年2月	金融クラウドサービス(IaaS)、バックアップソリューション、中小銀行向けネットバンククラウドサービス、セキュリティサービス など
光大銀行	光大科技	2016年12月	自社グループ向けの、ビッグデータ、クラウド、ブロックチェーン等の技術の開発と応用
建設銀行	建信金科	2018年4月	自社グループ向けの、共同利用型プラットフォームの開発と応用
民生銀行	民生科技	2018年5月	金融クラウドサービス、業界特化型クラウドサービス、コンソーシアム型クラウドサービス など
工商銀行	工銀科技	2019年5月	外部向けに、金融クラウドサービス(SaaS)等7種類の能力を輸出する

IV.まとめ

まとめ

■中国フィンテックの事例からの示唆

- データは、競争に勝つ重要な要素（データ駆動やテクノロジー駆動）
- ネット詐欺等新たに出てくる課題への対策を事前に検討しておくべき
- 消費者保護の観点も重要

■新局面の中国市場に対応するには

- 従来の武器だけでは戦えない、外部先端企業を活用する必要がある
- 試行錯誤を許容することが必要であり、スピード感のある意思決定が欠かせない

架空取引や不正取引、ネット詐欺等への事前の対策が重要

- 利用者を囲い込む「キックバック・キャンペーン」に、実は様々なリスクが潜んでいる。
- リスクへの瞬時的な対応が求められる。

不正業者の仮想マシンシステム



中国FinTech企業のリスクコントロールサービス

複数の角度から情報を収集分析し、リスクを軽減する。

- ・申請者の行動を分析する
- ・利用する設備を監視する
- ・異常IP、代理登録ロボット、不正アカウントを特定する
- ・詐欺電話番号を追跡する
- ・仮想マシンを検出する
- ・詐欺多発住所を検出する
- ・詐欺集団の位置情報を分析する

写真出所)CBNET記事 <http://www.cebnet.com.cn/20171108/102440281.html>

NRI

未来創発

Dream up the future.